

対話を重視した授業改革と



ICTの有効活用についてvol.5 ～教室の隅々まで授業改革を～



「対話を重視した授業改革とICTの有効活用について」vol.5の事例のポイントは、子どもたちがICTを有効に活用し、お互いの感性や考え方に触れながら学んだり、異なる考え方を組み合わせ、よりよい学びを生み出したりしている点です。

石狩管内における対話を重視した授業改革とICTの有効活用の実践事例

恵庭市立柏小学校 第1学年 国語



「じどう車ずかんカード」をICTで共有し、友だちのカードを参考にして自分の文章を直したり、友だちが書いた内容や表現のよいところをデジタル付箋で伝え合ったりして、互いのよさを見付け合いながら学んでいました。

千歳市立千歳第二小学校 第5学年 国語



ICTを活用し、伝記から読み取った人物像について共有し、説明し合いました。対話を通して、同じ伝記を読んでも、人物の捉え方や根拠は多様であることに気づき、学びを深めていました。

当別町立西当別中学校 第1学年 外国語



ICTを活用して学習の振り返りを共有し、友だちの気づきや疑問から次の学びに向けた課題を見付けたり、学びを再確認したりしていました。

新篠津村立新篠津中学校 第2学年 理科



気象現象が起こる仕組みについて、調べたことをICTで図やグラフを使って説明し、分かりやすい伝え方などについて意見を出し合うことで、理解を深めていました。

【担当から】

今回紹介した4校は、資質・能力の育成に向け、ICTを活用し、一人一人のよい点や可能性を生かし、多様な他者と協働して、学びを広げたり深めたりしている事例です。

石狩管内の多くの学校が、ICTを活用するだけでなく、有効に活用する方法について検討する段階へと進んでいます。子どもの未来保障に向けて、全ての教員が授業改革に取り組みましょう。
(義務教育指導班 指導主事 新井 宏)